

指導課短信

1 個に応じた指導等の現状

5月の教育課程連絡協議会で提出いただいた数学に関する調査の結果がまとまりました。数学科の学習習熟度別指導については、公立高等学校146校中56校が行っており、実施率は約38%でした。2クラス3講座展開や1クラス2講座展開など、少人数のレッスンルームを実施する学校が多くなっています。ティームティーチングを実施している学校は6校でした。この他にも多くの学校で、補習、グループ指導、個別指導、生徒同士が教えあえる時間の確保など様々な形で「個に応じた指導」が行われています。

また、観点別評価の導入については、公立高等学校146校中91校が行っており、その割合は約62%でした。観点別評価の内容については、多くの学校がシラバスの中に提示しています。

2 高等学校指導資料の配布

本年3月に数学・外国語・商業の高等学校指導資料「確かな学力を育てる学習指導と評価の在り方」を作成し、各高等学校に配布しました。この高等学校指導資料は、学力向上を目指した学習指導や授業改善への取組みを中心に、確かな学力を育てる学習指導と評価の在り方についてまとめたものです。

「知識・理解」を中心とした授業、いわゆる「チョーク&トーク」型授業からの脱

却を目指し、「関心・意欲・態度」を評価するための授業実践例も取り上げました。主な内容は以下のとおりです。この指導資料が各高等学校での授業改善・評価改善の一助となり、数学教育の充実のため、十分に活用していただければと思います。

- 「確かな学力」を育てる学習指導と評価の留意点
- 目標設定のねらいの明確化
- 観点別評価の数学科におけるねらい
- 数学科における「関心・意欲・態度」
- 「関心・意欲・態度」を評価する授業実践事例(数学Ⅰ・Ⅱ・A)
- 単元目標の到達度と学習内容の分析
- 学習指導内容と評価結果を次の指導に生かす授業改善への取組
- 自己評価について

3 千葉県高等学校教育課程研究協議会

去る7月26日(火)、千葉女子高等学校において、千葉県高等学校教育課程研究協議会が「学習指導要領等に係る説明・協議を行い、高等学校の数学教育の改善・充実を図ること」を目的として開催されました。

講師として、崎山廣和先生、田中正夫先生、中村秀夫先生、池谷隆先生、釜范徳行先生をお迎えし、以下のような内容で行われました。当日は、台風7号が接近しており、研究協議会を早めに切り上げたため、説明の4、5については残念ながら説明資料の配布のみとなってしまいました。

説明1 「国際学力調査と学力問題」

安房高等学校 池谷 隆 先生

説明 2 「中学校での学力状況から見た高校での課題と評価の改善」

佐倉西高等学校 釜谷 徳行 先生

説明 3 「確かな学力を育てる学習指導と評価のあり方」

千葉東高等学校 佐藤 啓之 先生
幕張総合高等学校 川口 俊雄 先生

説明 4 「授業の充実を目指して 一個に応じた指導・授業評価・授業の改善」

野田高等学校 小林 中 先生

説明 5 「生徒の意欲を高めるための一考察」

鎌ヶ谷西高等学校 相浦 敦 先生

池谷先生からは、本年度の教科担当指導主事連絡協議会における協議内容を踏まえて、国際学力調査「PISA2003」「TIMSS2003」の概要と考察について説明がありました。そして、数学の有用性を実感できる指導や実生活と関連させた指導を重視し、「生きることに使える数学」「生活の中に息づいた数学」を大切に、という話がありました。

次に、釜谷先生からは、中学校の教育課程実施状況調査によると、基礎的・基本的な計算の技能などについては定着する傾向にあるが、身につけた知識・技能を活用する力や、自分の考えを数学的に表現する力が弱いので、入学してくる生徒に対して、問題解決の過程を一層重視して指導する必要があるという話がありました。また、観点別評価や指導と評価の一体化など評価の改善についての説明があり、評価に対する意識の改革や、教員研修の充実が大切であるということでした。

次に、佐藤先生からは、「関心・意欲・態度」を評価する授業実践例や、自己評価と相互評価の具体例について説明があり

ました。続いて、川口先生からは、指導資料「確かな学力を育てる学習指導と評価のあり方」の趣旨を踏まえて「学力」「評価」「授業」についての説明がありました。

4 平成 17 年度公立高等学校入学者選抜学力検査における数学の結果

全体の平均点は、53.1 点で、前年度と比べて 4.2 点下がりました。基礎的・基本的な内容を問うものは、従来どおり正答率が高いのですが、複数の学習内容を利用して解く問題や、総合的な力や論理的に思考する力などを見る問題については正答率が低く、全体の平均点が下がった要因と考えています。

5 教科研究員 (平成 17・18 年度)

平成 17・18 年度の数学科教科研究委員を次の方をお願いしました。教科研究員の先生方には、数学科における指導内容や指導方法を実践を通して研究していただき、その成果を報告書としてまとめていただくことになります。

柳沼 洋一 (我孫子高等学校)
三浦 和雅 (長生高等学校)
丸山 誠一 (市立習志野高等学校)
藤崎 俊浩 (市立銚子高等学校)
大木 喜信 (市立銚子西高等学校)

なお、平成 15・16 年度の報告書は、すでに各学校に配布されていますので、過去の報告書に加えて積極的に活用してください。